

基礎運動学		講義	准教授 中川 剣人	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門 選択科目、スポーツトレーナーコー スの選択必修科目 柔道整復師コースの教養選択科目	科目ナンバリング	11321201 12220212	

1. 授業のねらい・概要

運動学は、ヒトや動物の身体運動に関する学問領域であり、解剖学と生理学の理論に基づいてからだの動き方・使い方を観察し、その機能および機序について探求するものである。また近年では、心理学、機械学、情報学などの横断的な知見と融合しながら、運動の制御、学習、発達といった認知神経科学的課題へのアプローチも進む。本授業では、これらの基礎となるヒトの解剖学的な構造と機能について学習し、そのうえでより複雑な運動行動や身体動作に対して運動学的視点からの観察力を養成することを目指す。

2. 授業の進め方

指定テキストにそって、主にスライド呈示による講義形式で授業を進める。また機能解剖を対象とする回では、解剖図の書き写しを課し、関係する理論概念や専門用語に関する説明を求めることがある。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. 下肢の機能解剖②（関節構造）
2. 運動学の対象と歴史／位置と方向の表現	10. 下肢の機能解剖③（関節運動）
3. 細胞と組織／運動器の構造と機能	11. 体幹の機能解剖①（骨格）
4. 神経系と反射／感覚器の構造と機能	12. 体幹の機能解剖②（筋）
5. 上肢の機能解剖①（骨格・筋・神経）	13. 体幹の機能解剖③（脊柱の運動）
6. 上肢の機能解剖②（上腕と前腕の関節運動）	14. 姿勢の制御／歩行と走行
7. 上肢の機能解剖③（手指の関節運動）	15. 総復習
8. 下肢の機能解剖①（骨格・筋・神経）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

前回までの授業ノートの見直しに 30 分程度、また課題が出された場合はさらに 1 時間程度以上の準備学修を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験期間中の同時限内において、解答のポイントや出題の意図について全体説明を行い、個別質問にも応じる。

6. 授業における学修の到達目標

運動器・感覚器の基本的な構造と機能を理解し、身体運動に対して機能解剖学的表現を用いて説明できるようになる。

7. 成績評価の方法・基準

受講態度と参加・活動状況（30%程度）、期末試験（70%程度）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

「基礎運動学第6版（補訂）」（中村隆一・斎藤宏・長崎浩：医歯薬出版）を指定テキストとする。

9. 受講上の留意事項

特になし。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、国立研究機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。